

---

# 第1回モニタリング会議 ご説明資料 (2014年10月～同年12月業績報告)

2015年2月27日



1. 計画と実績の対比	p.3
□ 全社	
□ 路線バス	
□ 軌道	
2. 公共交通利用状況	p.6
□ 路線バス	
□ 軌道	
3. 公共交通に関する設備投資の実施状況	p.8

## 計画と実績の対比（全社）

全社の2014年10月～12月実績は、以下のとおりです。

	単位：百万円		
	2014/10～2014/12	2014/10～2015/3	進捗率
	3ヶ月 実績	6ヶ月 計画0期	
売上高	1,516	2,881	53%
売上原価	209	337	62%
差引収益	1,307	2,544	51%
人件費	708	1,309	54%
厚生費	71	152	47%
動力費	118	269	44%
修繕費	83	172	48%
物件費	27	56	47%
経費	221	547	40%
諸税	25	47	53%
減価償却費	79	165	48%
営業費計	1,331	2,718	49%
営業利益	-24	-175	—
営業外収益	17	35	47%
営業外費用	18	38	48%
経常利益	-26	-177	—
特別利益	0	419	0%
特別損失	84	215	39%
税引前当期純利益	-109	27	—
法人税等	0	27	0%
当期純利益	-109	0	—

（注）計画0期は、決算期の変更等を反映させた事業再生計画の15/3半期

- ✓ 経常利益  
路線バスと貸切バスの専属営業利益、一般管理費の実績が、計画よりも上ブレしているため、第1四半期経過時点で+151百万円
- ✓ 特別利益  
➢ 補助金は3月に380百万円計上予定
- ✓ 特別損失  
➢ 構造改革費用3月までに残額100百万円計上予定
- ✓ 当期純利益  
計画に対し、10～12月累計でほぼ▲109百万円

#### <主な勘定科目の説明>

- ✓ 動力費…軌道動力費、バス軽油費等
- ✓ 修繕費…軌道、バス事業における各種修繕等
- ✓ 物件費…水道光熱費、備用品等
- ✓ 諸税…固定資産税、自動車税等
- ✓ 減価償却費…固定資産償却、のれん代償却
- ✓ 営業外収益…受取配当金、業務委託料等
- ✓ 営業外費用…支払利息等
- ✓ 特別利益…補助金等
- ✓ 特別損失…統合費用、構造改革費用等

## 計画と実績の対比（路線バス）

路線バス事業の2014年10月～12月実績の専属営業損益は、以下のとおりです

単位:百万円

	2014/10～2014/12	2014/10～2015/3	進捗率
	3ヶ月 実績	6ヶ月 計画0期	
売上高	285	557	51%
売上原価	0	0	—
差引収益	285	557	51%
人件費	206	386	53%
厚生費	18	44	42%
動力費	38	99	39%
修繕費	32	66	48%
物件費	5	14	38%
経費	31	71	43%
諸税	4	11	33%
減価償却費	9	19	47%
営業費計	343	710	48%
専属営業損益	-59	-153	—
減価償却前専属営業利益	-50	-134	—

- ✓ 売上高  
ほぼ計画通りの見込
- ✓ 費用
  - 人件費は、12月賞与支給等にて50%超
  - 動力費は、軽油単価下落により進捗率39%
  - 物件費は、3月までにバス停建替費用3百万円発生見込
  - 諸税は、着地で約6.5百万円の見込
- ✓ 専属営業損益  
計画0期▲153百万円に対し、10～12月累計で▲59百万円

＜専属営業利益とは＞

- ✓ 本社費配賦前の事業別営業利益

(注)計画は、決算期の変更等を反映させた事業再生計画の15/3半期

## 計画と実績の対比（軌道）

軌道事業の2014年10月～12月実績の専属営業損益は、以下のとおりです

単位: 百万円

	2014/10～2014/12	2014/10～2015/3	進捗率
	3ヶ月 実績	6ヶ月 計画0期	
売上高	241	482	50%
売上原価	0	0	—
差引収益	241	482	50%
人件費	157	278	57%
厚生費	18	35	51%
動力費	19	37	50%
修繕費	12	20	62%
物件費	5	11	46%
経費	13	31	43%
諸税	7	8	89%
減価償却費	10	21	49%
営業費計	241	440	55%
専属営業損益	-0	41	—
減価償却前専属営業利益	10	62	16%

- ✓ 売上高  
ほぼ計画通りの見込
- ✓ 費用
  - 人件費は、12月賞与支給等、および3月までに補助による戻入れ8.6百万円あるが実績計上しているため進捗率57%
  - 修繕費は、3月までに補助による戻入れ5.4百万円あり
  - 諸税は、支払時期の都合上89%の進捗率
- ✓ 専属営業損益  
計画0期41百万円に対し、10～12月累計で若干赤字

(注)計画は、決算期の変更等を反映させた事業再生計画の15/3半期

路線バスの利用状況は、収入・利用客数ともに、前年に比べ、下降基調となっています

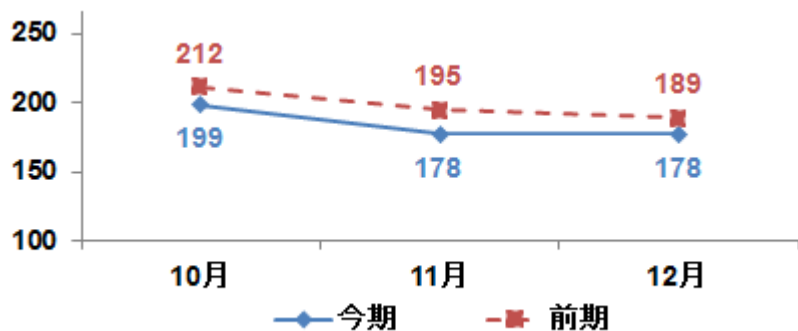
単位: 百万円

	2014/10～2014/12	2013/10～2013/12	前期比
	3ヶ月 実績	3ヶ月 前年同期	
運送収入	279	298	94%
定期全体	60	61	97%
定期外収入	220	237	93%
運送雑収入	1	2	88%
差引収益	281	300	94%

<路線バス収入の増減要因>

- ✓ 4月の運賃改正（消費税増）による定期券への移行
- ✓ H26年10月1日とさでん交通スタート時のダイヤ改正で▲2.5%の減キロ実施による影響
- ✓ 10月11日～13日の異常気象（台風）で13日は1日運休（▲310万円）
- ✓ 旧会社の決算確定に伴う売り上げ精算による減（▲300万円）

<利用客数推移> 単位: 千人



<利用客推移>

- ✓ 人員はICカードのデータのみではあるが収入と同様の傾向

(注) 乗客数は、ICカード「ですか」データに基づく (現金などを除く)

軌道の利用状況は、収入・利用客数ともに、前年に比べ、下降基調となっています

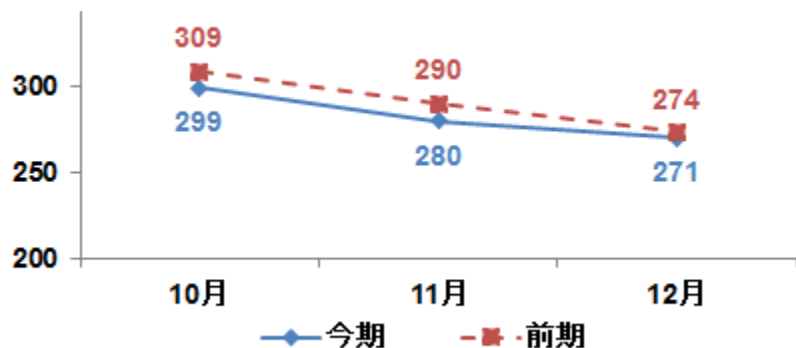
単位: 百万円

	2014/10～2014/12	2013/10～2013/12	前期比
	3ヶ月 実績	3ヶ月 前年同期	
運送収入	221	226	98%
定期全体	59	58	101%
定期外収入	161	167	96%
運送雑収入	1	2	56%
差引収益	222	228	97%

<軌道収入の増減要因>

- ✓ 4月の運賃改正(消費税増)による定期券への移行
- ✓ 10月11日～13日の異常気象(台風)で13日は1日運休(▲260万円)
- ✓ その他は、事故弁償金の減

<利用客数推移> 単位: 千人



<利用客推移>

- ✓ 人員はICカードのデータのみではあるが収入と同様の傾向

(注) 乗客数は、ICカード「ですか」データに基づく (現金などを除く)

## 公共交通に係る設備投資計画の実施状況

2014年10月～12月の公共交通設備投資は、以下表のとおりです

単位：百万円

事業	投資計画名	投資総額	14年10月～12月 実施の有無	投資実施 予定月	投資目的・狙い
路線バス	補助車両(3両)	58	未	27.3月	安全安心への取組みのため、2015年上期の2両を先行して、5両購入予定(約96百万円)
	ドライブレコーダー	50	未	27.3月	安全安心・接客への取組みのため、順次取付
	ダイヤ編成支援システムバージョンアップ	1	実施	—	利用促進への取組みのためのシステム更新
軌道	セルコンタワー <sup>(注1)</sup>	1	実施	—	作業員の安全確保および作業効率向上のため
	鏡川変電所ΔI取替工事 <sup>(注2)</sup>	3	実施	—	安全安心への取組みのため
	レールの重軌条化工事 <sup>(注3)</sup>	40	未	27.3月	安全安心への取組みのため
	電源装置(インバータ)取替	5	未	27.3月	安全安心への取組みのため
	現金投入口改良等	2	実施	—	利用促進の取組みのため

(注1)セルコンタワーとは高所作業台

(注2)ΔIとは、過電流遮断装置

(注3)レールの安定のための重量化工事